

「教師力」育成プログラムの開発と養成教育実践

— 島根大学教育学部の教育課程改善の試みと成果 —

・島根大学教育学部 高岡 信也

「島根・鳥取再編」の趣旨：「あり方懇」が示した「教員養成系大学・学部の再編による教育機能の強化」を実現し、山陰地域における教員養成基幹学部を構築する。その際、島根大学教育学部は、県境を越えて、地域の教員の養成・研修のすべての局面において両県教委等の関係諸機関と連携を強化し、かつ社会が求める優れた資質、教育的実践力を有する教員の育成に貢献する。

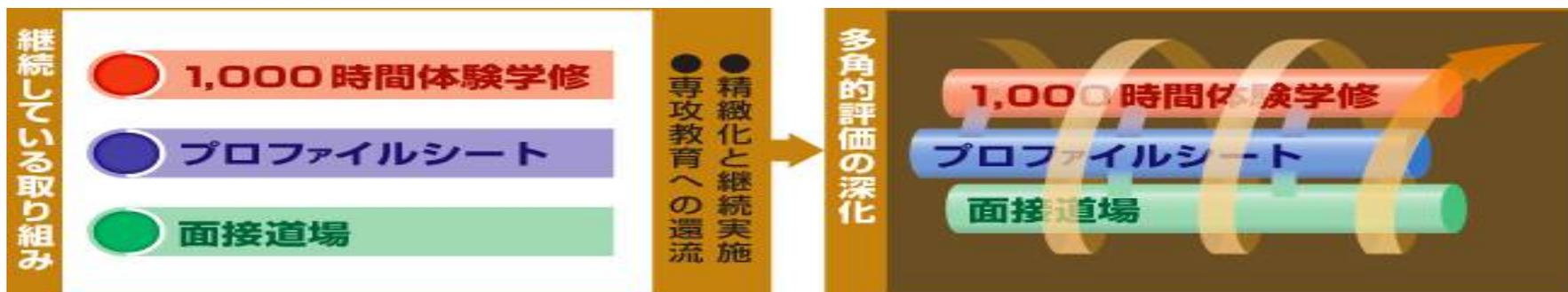
再編計画の概要

- ① 教員の移動(鳥取大→島根大 3名)
- ② 学生の移動(教員養成課程交換) 新課程定員100名, 教員養成課程定員70名の交換
- ③ 島根大学教育学部学校教育課程 170名の整備

- 1 両大学間で「教員養成系学部再編に関する協定」締結(平成15年8月)
- 2 平成16年4月 新学部の発足 県境を越えた学部再編の唯一の成功事例

(平成16年学部改組) 教育改善の目標設定 → 教育プログラムに必須の構成要素を抽出, 卒業要件として明示する

- ① 「教師力」の構成要素としての「人間関係の構築力」, 「実践的指導力」, 「専門科学の高度な理解」等を学士課程教育で育成する
↳ 豊富な社会的経験, 学校と子ども体験の提供 → 「1,000時間体験学修」の必修化, プログラム構築
- ② 教職能力の成長過程の可視化 / 自己評価と他者評価の融合
↳ 教師力向上のプロセスと強化できた実践力の評価 → 「プロフィール・シート」, 「外部評価委員による面接指導」



平成16年度以降の島根大学教育学部の歩みと成果：

平成16年学部改組の際に、完成年度(平成19年度)に向けて順次検討すべき課題を次のように定めた。

- 1 「教師を育てる」という人材養成目標のもとで、そこに至る経路を明示し、着実に個別具体的な目標を掲げ、「免許法」依存型の養成教育からの脱皮を図る。
- 2 「1000時間体験学修の必修化」を皮切りに、子どもとの交流や学校における教育的体験を通して、高度な教育的実践力の育成をめざす独自の教育プログラムを構築し実践する。
- 3 学生自らが「自身の教師力の育ち」を実感でき、バランスの取れた教職能力の向上を図るための「評価」方法を開発する。
- 4 専門科学から教職科学としての「教科専門」への脱皮をめざし、「教育内容学」の構築を進める。

教員養成
基幹学部
としての教
員養成教
育改革の
実 施

教員の意識改革 … 「現代社会と学校が求める優れた教育的実践力の育成こそが学部の使命であること」
「独自のFDの推進による専門職養成への積極的関与の姿勢の醸成、『教員養成嫌い』の払拭」

養成教育内容・方法の抜本的改善 … 「1000時間体験学修の必修化による豊かな人間力, 教育的情熱, 教育的実践力の基礎, 協調能力(人間関係, コミュニケーション力)の育成」, 「免許法の最低基準を凌駕する専門科学の確実な習得」, 「教育内容学としての『教育内容構成研究』科目の開講(専門と教職の融合)」, 「主専攻・副専攻制の導入による多様な教職能力の開発」

平成
16年

基盤整備：特別教育研究経費(平成17年～19年) 「21世紀の教育改革を担う新たな教員養成教育プログラムの構築」

具体的
成果

平成
17年

教員養成GP採択 戦略的FDによる資質向上スパイラルの実現
—地域教員養成基幹学部のミッションを達成する「協同」の構築—

平成
19年

特色GP採択 確かな教師力を育む多角的評価の実現
—「1,000時間体験学修」「学生プロフィールシート」「面接道場」で可視化する教師としての自己成長—

平成
20年

教育GP採択 「環境寺子屋」による理科好き教師の育成
—豊富な環境リテラシーを有する「理科に強い義務教育教員」の育成—

教育体験活動をコアとする教師教育改革

「1000時間体験学修プログラム」による実践力の育成

- ★「教育実習」を質・量ともに超える教育体験活動
- ★「体験学修」を「科学的・理論的学修」と並ぶ教師教育カリキュラムのコアと捉え、「1000時間」を必修化
- ★「科学的・理論的学修」(座学)と「体験学修」との往還

が生み出す実践的思考力の開発



「1000時間戦略」

豊富な臨床的体験の必修・コア化による教師教育改革

